## パネルディスカッションP1-2
## 高気圧酸素治療による医療水準の底上げ
## ー編集委員長の立場から

池田知純
東京慈恵会医科大学環境保健医学講座

編集委員長の責務は会員諸兄さらには社会一般にとって有益な日本高気圧環境・潜水医学会雑誌（以下会誌）を刊行することに尽きる。したがって「高気圧酸素治療による医療水準の底上げ」というテーマについて編集委員長の立場から応えるとすれば，会誌を充実させることに他ならなくなる。以下，会誌の充実について具体的に考えてみる。

会誌は広義の学術論文を掲載するスペースと様々な関連情報を掲載する会員コーナーに分けられる。

学術論文に関しては，医師以外の会員も多いところから，原著ないし症例報告に限らず技術報告や資料等幅広い分野の論文を掲載している。著者についても，妥当と考える場合は会員以外さらには医療関係者以外も可能としている。また，テーマごとの情報として活用できるように，シンポジウムやワークショップの発表を論文の形に残すよう努めているが，すべてについて論文を取りまとめているわけではない。司会等をされた先生方の積極的なご協力をお願いしたい。

しかしながら，投稿論文の数は極めて少ないまま推移しているのが現実である。英語論文が重視され二重投稿に厳しい目が注がれる現今の状況では，投稿数の増加を期待するのは百年河清を俟つ感がするところから，今年から学術総会の成果をプロシーディングの形で残すことにした。

プロシーディングの刊行に至った主な背景ないし目的は以下のとおりである。その一つは，毎年相応のエネルギーを注いで多くの発表がなされているにも拘わらず，その殆どが論文化されていないことである。従来の予稿としての抄録では，研究成果が充分に記載されていない可能性があり，学術資料としての価値が低くなる。プロシーディングの刊行に於ては，記述スペースを倍増し，総会での議論も反映させるべく発表後の変更も可能としているので，資料性が高まる。さらに，プロシーディング原稿の執筆により研究成果を単文とは言え原稿としてまとめているので，それに基づく原著論文を執筆しやすくすることも期待できる。とまれ，プロシーディングの刊行は学会として初めての試みであるのでその成果を見守りたい。

誤解されがちなこととして査読制がある。学術論文にはそれなりの信頼性，客観性ひいては品位が求められることから，投稿論文が査読を受けるのは当然のことである。しかし，この査読はあくまで投稿者と協力してよりよい論文にするためのもので，決して「ケチ」をつけるものではない。投稿者査読者ともにこの点をよく理解しておいて欲しい。

最後に学術論文の刊行についてはどうしても言っておかねばならないことがある。それは論文の質のことである。会誌はあくまで学術雑誌であるので，掲載論文にはある一定の質が要求される。投稿論文数が少ないからと言って，学術論文としての質をないがしろにすることは，学術雑誌としての自殺行為になる。質を高めるためにも上記の査読が重要になってくるが，それに加え，会誌では“Letter to the editor”の場も設けている。必要な場合はこの場を利用して活発な意見の交換をしていただきたい。また，この場があることが投稿に当たっての節度ある緊張感に繋がることが期待される。

もっとも，編集委員会としては質の向上に留意しながらも，投稿された論文に関しては極力掲載するように努めていることも記しておきたい。実際に編集委員会の手を通すことによって見違えるようになった論文もあるので，臆せず挑戦していただきたい。

会員コーナーでは伝えるべき情報を速やかに掲載するように努めているが，事務サイドだけでは限界がある。ニュース等があれば遠慮なく寄せていただきたい。なお，会員コーナーが有効であるためには，会誌が定期的に刊行されることが必須条件である。時として，原稿の集積が遅滞し定期刊行に支障を来しかねないことがあるので，その意味でも，会員諸兄からの積極的な投稿をお願いしたい。